

令和5年度青少年科学館専門部会 第2回定例会 摘録

日 時：令和5年11月10日（金） 14：00～15：30

会 場：川崎市青少年科学館（かわさき宙と緑の科学館） 自然学習棟2階 学習室

出席者（敬称略）

- (1) 委 員：（公募市民）服部公俊（部会長）、南條邦子（副部会長）
（学識経験者）佐藤武宏、山岡均、常喜豊、栗芝正臣
（教育職員）高橋泉
（家庭教育関係）眞壁総子
- (2) 事務局 久保館長、弘田、高中、杉浦、渡邊（司会進行）、齋藤、服部、内藤（記録）、上田（生田緑地共同事業体）
- (3) 傍聴者0人

1. 開会（渡邊）

事務局より開会告知、会議の成立、傍聴者受入（定員5名）、記録（録音及び筆記）作成及び会議記録公開について周知（傍聴者なし）。

2. 館長挨拶（久保館長）

- ・本日は御多忙の中、生憎の雨の中、参加いただき感謝申し上げます。
- ・本日は、夕方から近隣の小学校で観望会が実施予定です。今年度から、持ち運べるプラネタリウム「メガスタークラス」を使い、今後は雨天曇天の場合もできるだけ中止にせず、せっかくの機会を有効に使っていきたいと思います。
- ・昨今、科学技術の進歩が凄まじく、インターネットの無かった時代が思い出せないほどです。AI等の技術も進歩したが、ネット上でも何が真実なのかを自身の中で見極める力が必要となります。折しも、かわさきGIGAスクール構想では、一人1台端末が与えられており、子供たちは機械に慣れていきます。そのような時代において、当館では、「体験」「実際の物を見る」「触れる」等をキーワードに科学への興味を注ぐことが期待できるのではないかと考えています。
- ・8月13日に学芸業務を体験する小学生のお仕事体験を実施しました。当日は小学生11人がキッズ学芸員として、実際に一般来館者に展示解説や、プラネタリウムの解説体験を実施しました。「実際に声を出して解説することでお客さんとして聞いていたときよりも、何気ない展示にも工夫があることに気付いた」「星が大好きなので星の説明ができて楽しかった」「生き物や星の不思議を学べた」「また参加したい」などの声が新聞で取り上げられました。
- ・また、新しい取り組みとして日本女子大学附属高等学校天文クラブによるプラネタリウムの発表会を9月18日に実施しました。45分のシナリオを高校生たち自身が作り、操作や解説、惑星や星座の投影、BGMなど全ての操作を当日は職員の手を一切借りずに行いました。タウンニュースに、「部員同士が活発に意見を活発に出し合って作り上げることができた。緊張したけれどみんなの工夫がかたちになってよかった」という生徒の声が取り上げられました。
- ・今後もこのような体験できる活動を通じて、さらにより多くの市民に愛される魅力ある科学館づくりを推進したいと思います。今年度はプラネタリウム100周年を記念して夏休みに企画展を実施し、冊子を作成した。毎月番組制作を続けている当館の職員の奮闘ぶりなども載せていますので、時間がある時に御覧ください。
- ・本日の主な議題は、令和5年度の事業の進捗を中間報告です。委員の皆様から様々な御助言をお願いします。

3. 議題

◎以降、服部部会長による議事進行

令和5年度事業実施中間報告について資料1（各担当 説明・質疑応答）

①-1 9月末までの事業実施状況、今後の実施予定について、事業毎に説明

(1) 収集保存事業

【自然分野】

- ・「収集資料の収集・分類・整理（台帳化）」
昆虫資料を中心に新規資料の作製を進めており、新規作成資料として、9月末までに昆虫557個体を採集し、そのうち301点について標本を作製中である。収蔵庫にある既存の昆虫標本のうち未登録資料の整理・登録（電子台帳化）として1,000点を目標に進めている。9月末までに450点を登録済。現時点では638件登録済。
- ・「GBIF等国内外機関への資料情報の提供」
「サイエンスミュージアムネット（S-Net）」「地球規模生物多様性情報機構（GBIF）」への資料データを提供することで国内外への収集資料情報を公開している。今年度は、植物標本等、資料2,250点を提供予定。10月末に提供済。

【天文分野】

- ・「プラネタリウム番組のアーカイブ化」
毎月行っている一般向け番組制作の際に収集した資料、画像、動画等の番組素材やプログラム等のアーカイブ化を実施。資料のデータベース化については、国立科学博物館職員を講師に研修を実施するなど、今後の構築と公開に向けた検討を行う。
- ・「天文資料の整理保存」
故富田氏、故箕輪氏から寄贈された天文資料を整理保存し、目録作成を進めている。紙資料のデジタル化を行っており、これまでに天文に関する古書11点、616ページをデジタル化した。

【科学教育分野】

- ・「科学実験についての資料収集と保存・管理」
サイエンス教室・サイエンスワークショップ等で提出される計画書・報告書を実践事例集の作成に向けて管理している。館内視聴を踏まえ、科学工作を紹介する10分程度の動画を編集した。

【質疑応答】

山岡委員：プラネタリウム番組のアーカイブ化について、アーカイブしたものを他館の利用は可能か。また、実績はあるか。

弘 田：技術的、権利上の問題もあるので他館での利用は想定していない。あくまでも館の資料として保存している。

服部委員：収集保存した資料の利用状況はどうか。

高 中：今年度は専門家からの閲覧依頼はない。なお、研究用にDNA鑑定のため植物片を使用したいという一部資料提供の依頼は数件あったが、1件は資料数が少ないため断った。

服部委員：問合せはあったのか。

高 中：そうである。

(2) 展示事業

【自然分野】

- ・「生田緑地の自然情報の発信」
生田緑地における自然について、受付横の生田緑地マップや SNS などを活用してリアルタイムな情報発信を行っている。生田緑地マップは2週間に1回程度で更新、SNSは9月末時点で27回更新した。
- ・「新たな自然史資料による常設展示の更新」
生田緑地の四季だより、ピックアップテーブルで新たな標本・キャプションによる展示更新を実施する。9月末時点で、四季だよりを2回更新、ピックアップテーブルを4回更新した。

【天文分野】

- ・「プラネタリウム一般向け投影」
職員の自主制作により1カ月ごとにテーマを変えて投影。
- ・「子ども向け投影」
これまでに制作した番組を約2カ月ごとに入れ替えて投影。
これまで、感染症対策のため座席定員を制限していたが、5類移行を踏まえ段階的に制限を緩和し、5月10日から一般投影は150席、フュージョン投影は100席、7月4日以降は通常の定員である一般投影200席、フュージョン投影132席としている。9月末までの観覧者数は33,203人。今年度中に子ども向け新番組を1本作成予定。
- ・「星空ゆうゆう散歩」
平日午後にシニア向け投影として実施しており、元職員の國司眞氏を講師に迎えて毎月開催。9月までに5回実施し、観覧者数は573人。
- ・「ベビー&キッズアワー」
令和2年度以降、感染症予防として休止していたが7月から再開。9月までに3回開催し、観覧者数は224人。
- ・「学習投影」
小中高等学校それぞれの学習指導要領に沿って投影。幼稚園・保育園等を対象とした投影も実施。
- ・「星空自由空間」
平日の一般団体による貸切利用として受入れるもの。今年度はこれまでのところ利用は無し。
- ・「天文関連展示」
プラネタリウムの誕生100周年を記念して、当館のプラネタリウムの舞台裏やプラネタリウムの歴史を紹介する企画展を開催し、7,926人が来場。併せて図録を刊行した。
- ・10月にオーロラ上映会に関連しオーロラの写真パネル展を開催した。

【科学教育分野】

- ・「市民協働の科学工作展示」
サイエンス教室・サイエンスワークショップ等で取り組んだ科学工作物を1点更新した。また、デジタルサイネージを使って、館内視聴できるように工作物紹介の動画公開を6月から開始した。

【質疑応答】

栗芝委員：ベビー&キッズアワーを木曜日と水曜日に設定している理由は何か。

弘 田：もともとは平日に様々な年代の方々に来ていただくため、シニア向けにゆうゆう散歩、小さなお子様向けにベビー&キッズアワーを実施している。土日休日に投影を希望する声もいただくが、既に子ども向け投影を実施しており、枠を増やすことは難しい。

栗芝委員：土日は多くの子供連れの方が来られるので可能であれば、土日どちらかでも開催を検討してほしい。

弘 田：検討する

服部委員：ゆうゆう散歩は月1回の実施か。

弘 田：そうである。

山岡委員：団体貸切利用は、いつから実施していて例年いくらほど実績があるのか。

弘 田：3年程前から試行的に実施しており、年間3～4件程度の実績がある。プラネタリウムでのライブや小さなお子様向けの子育て団体向けの投影などの実績がある。

山岡委員：今年度はたまたま利用がないということで理解した。

佐藤委員：科学分野について、動画作成し、館内のデジタルサイネージで公開しているが、ネット公開の予定はあるか。

杉 浦：以前から多摩区との連携事業でスマホ等の端末を使ったAR動画が見られるものを設置してきた。専門委員の皆様の意見を踏まえ、端末を介さずに小さなお子様が自由に閲覧できる環境として、デジタルサイネージを使う形で館職員が編集した動画を公開している。すべての動画をインターネットに公開すると、ネット上で完結してしまうので、来館のきっかけとなるように、ホームページ等で動画展示の一部分の紹介を検討している。

服部委員：来館者(プラネタリウムの観覧者)数について、昨年度よりも横ばいであるが、これについてコメントはあるか。

弘 田：今年度の観覧者数は昨年並みである。観覧者数は、定員を増やしたからといって単純に増えない。天候等の要因がある。特に夏期間は猛暑で伸び悩んだ。

(3) 調査研究事業

【自然分野】

・「市域の生物調査」

種子植物と野鳥は川崎市全市で、昆虫とシダ植物は生田緑地を中心として、市域における動植物相解明を進めるための生息種の確認調査を行う。

生田緑地を中心として植物、野鳥、昆虫はモニタリングが可能な分類群については、生息状況把握のための実態調査を継続している。

・「市民の興味関心を高める調査研究の実施」

外来種のムネアカハラビロカマキリについて、昨年度の幼虫期での採集圧による個体数抑制の効果を検証するために、生田緑地内に3つのルートを設置し、それぞれ週に1度の頻度で調査を実施。9月末までに各ルート12回、計36回調査し、調査外も含めムネアカハラビロカマキリを43個体、ハラビロカマキリを3個体、ハラビロカマキリSPを1個体確認しており、11月までの結果と昨年度の結果を元に状況を整理予定。その他の新たな調査研究の対象については検討する。

【天文分野】

- ・「市民協働による川崎市域の星の見え方調査」
夏季にインターネットを通じて実施し、肉眼の調査は38件のデータが集まった。
冬季はデジタルカメラによる調査を実施予定。
- ・「天体の観測」
太陽望遠鏡での白色光及びH α 光による観測を随時行っている。今後、土星や木星などの観測を行う予定。

【科学教育分野】

- ・「市民の興味関心を高める調査研究」
玉手箱教材「飛ぶタネ」で使用するタネを見直し、生田緑地及び周辺での計画的な採取を実施している。地層学習のデジタル教材化に向けて、露頭などの画像資料を確認し、一人一台端末の授業活用に向けたデジタル教材の検討を進める。

【質疑応答】

常喜委員：自然分野の調査について、環境変化とともに調査結果は変化しているか。そのようなことを今後展示に反映するのか。

高 中：市域の生物調査は委託事業で実施しており、植物と野鳥は毎年データが取れているが、シダ・昆虫については担当人数が少ない。今年度は生田緑地のガを中心に採取している。紀要で野鳥の年度変化は報告している。詳しい傾向は今すぐ答えられないが、公開している。展示については、ムネアカハラビロカマキリ調査について、できる範囲で公開していきたい。

山岡委員：星の見え方調査に38件のデータが集まっているが、これまでと比較して参加数は増えているのか。

弘 田：件数は増えたが、同じ人が何度も投稿している状況である。

山岡委員：インセンティブがあれば参加者が増えると前回の専門部会で提案したが、導入しているか。

弘 田：今のところ行っていない。今後検討する。

服部委員：ムネアカハラビロカマキリの個数は増えているのか。

高 中：昨年に比べると数は減っていると感じている。

服部委員：それは全国的なものなのか。

高 中：全国的ではない。捕獲して調査をしている調査は他に見られない。積極的な捕獲による影響で個体数が減っているのかもしれない。

(4) 教育普及事業

(事業説明は配布資料1を参照)

【自然分野】

- ・「生田緑地観察会」
生田緑地の地質、野鳥、植物、昆虫など、四季折々の自然を観察する観察会を市民団体への委託事業として実施し、9月末までに10回開催。雨天や熱中症回避のため4回中止。
- ・「サイエンス教室」
バックヤードツアー等の教室を4回、地質をテーマにした観察会を含む3回連続講座を計画した。9月末時点で、単発の講座を1回、連続講座の1回を実施。
- ・「自然サポーター研修会」
新規の事業として自然分野の調査研究等を行う自然サポーターを養成することを目的とした講座を4回連続講座で実施。研修会は9月末までに3回を開催、10月中に4

回目を開催。

- ・「自然観察（地層・林）」
学習支援を目的に、小・中・高等学校の依頼に基づき、生田緑地内の地層の観察会を実施。9月末までに6校6回を実施。林の観察会は現在まで依頼無し。
- ・「総合的な学習の時間支援」
小・中・高等学校の依頼に基づき、総合的な学習の時間の支援を行う。9月末までに依頼無し。

【天文分野】

- ・「アストロテラス公開事業」
平日昼間にアストロテラスを公開して太陽の観察を行っている。9月末までに29回開催し、1,229人が参加。
月に2回程度、日曜日に「昼間の星を見る会」を開催。太陽と1等星や惑星などを観察。9月までに4回開催、118人が参加。
- ・「星を見る夕べ」
夜間の天体観察会（月2回土曜日、8月は毎週土曜日の計4回実施）。定員100名の事前申込制で実施し、9月までに14回実施し、828人が参加。
- ・「特別観望会」
珍しくかつ観察しやすい天文現象等を観察するもの。今年度は計画なし。
- ・「プラネタリウムワークショップ」
小学生を対象とした年間を通じた12回の連続講座で、プラネタリウムの番組を子どもたちが番組の企画・制作をし、発表会で投影する教室を実施。12名が参加。
- ・「新規事業 高校生を対象としたプラネタリウム発表会」
日本女子大学附属高等学校と連携し、天文クラブの生徒を対象に、プラネタリウムの番組制作、操作、解説等を実施。9月に発表会を行い、64人が見学。
- ・「天文講演会」
メガスター開発者を講師に迎えた講演会を年度内に開催予定。
- ・「天文サポーター研修会」
天文事業ボランティアの会合を毎月1回実施し、事業の準備やスキルアップのための研修を行っています。9月までに6回実施し57人が参加しました。
- ・「プラネタリウムイベント投影」
元南極越冬隊員を講師に迎えた特別投影と、仙台市天文台制作の震災特別番組を上映する特別投影を実施。合計3回の投影を実施し、観覧者数は303人。
オーロラの上映会を10月に3回実施。10月27、28日の2日間に3回の上映を実施し、観覧者数は328人。
東京交響楽団のトランペット奏者等が出演するプラネタリウムコンサートを12月に開催予定。
- ・「かわさき星空ウォッチング」
移動天文車アストロカーで市内各地に出向いて行う観察会を依頼を受けて実施。9月に1回の利用があり参加者は83人。
- ・「天文分野のサイエンス教室」
アストロテラスの望遠鏡を使った天体観察や日時計の工作、プラネタリウムのバックヤードツアーなど、9月までに6回実施し、64人の参加。

【科学教育分野】

- ・「ワクワクドキドキ玉手箱・出前科学実験教室」
小中学校等の依頼に基づき、委託団体が科学教材であるワクワクドキドキ玉手箱を活用して行う科学実験教室を実施。9月末までに18回、延べ589人が利用。

- ・「サイエンス教室（科学分野）」
科学の楽しさに触れられる実験や工作を行う事前申込制の教室として、12回実施、136人が参加。
- ・「サイエンスワークショップ」
子どもから大人まで楽しめる当日参加型のイベント。初歩的な科学講座として簡単な工作や観察・実験を実施。5類移行をふまえ、6月からイベント実施方法を整理券方式から先着順へ変更。9月末までで35回実施、1,631人が利用。
- ・「科学実験ショー」
ワクワクドキドキ玉手箱を活用。11月3日に開催し、2月23日も開催予定。
- ・「第18回かわさきサイエンスチャレンジ」
子どもの科学への関心喚起・促進を目的に、KSP（かながわサイエンスパーク）で8月開催の同イベントに参加し、6つの工作ブースと3種類のサイエンスショーを出展協力。2日間で科学館関連ブースに897人の小学生と保護者が利用。
- ・「科学サポーター研修会」
科学実験指導者を養成することを目的とした講座。館内イベント（サイエンス教室・ワークショップ）での実習を含め全6回の講座を行い、受講者11名が修了。
- ・「子ども創意くふう教室」
一人ひとりの創造性を伸ばすことを目的とした連続講座。12月開始予定。
- ・「出前教室」
科学館職員が、実施団体から依頼を受けて自然や科学、天文に関するテーマに行う教室。図書館施設の要請があり、学芸職員による生物をテーマとした出前教室を6月に実施。
- ・「ゆうゆう広場科学実験教室」
川崎市適応指導教室（ゆうゆう広場）に通う小中学生を対象に、科学館や各ゆうゆう広場にて行う科学実験教室を9月末までで12回実施。63人が利用。
- ・「かわさきGIGAスクール構想」
学校の理科教育の充実につながるよう端末を活用したデジタル教材の構成を検討中。
- ・「学芸分野共通の新しい取組」
小学生を対象に、科学館の自然・天文分野の学芸業務を体験する講座「夏休み そらみど♪小学生おしごと体験」を8月に開催。当日は11人が参加。

【出版事業】

- ・「青少年科学館「紀要」等出版物の刊行」
調査研究等、学芸事業の成果を「紀要第34号」に取りまとめる。なお、第34号についてはこれまで通りの対応とするが、以降については、紀要への査読の導入の有無、紙媒体での刊行、公表時期等に関する他館への調査結果を参考に紀要の在り方について検討する。

【質疑応答】

佐藤委員：自然サポーター研修会の要請されたサポーターは、（3）の調査研究事業の調査員として活躍するのか。

高 中：理想的にはそうである。実際に、サポーター修了生にかわさき自然調査団に所属した方もいる。

佐藤委員：すごく良いと思う。

山岡委員：新規で実施したプラネタリウムの発表会については、どれぐらいの時間を要したか。

弘 田：学校でもかなり時間をかけて対応していただいた。来館しての対応は3～4回程度、毎回1～2時間程度であった。

館長：4月に当館から学校側に声掛けをした。最初はプラネタリウム自体を知らない状況であったので、4月5月に2回、当館プラネタリウムでできることのデモンストレーションを実施した。それからシナリオ作りに入り、当館職員が学校へ出向いたこともあった。シナリオ完成は8月で、投影練習はそこからである。最初は操作がおぼつかなく、解説もたどたどしかったが、おどろくような成長で、最終的には我々の手を借りずに投影が出来るようになった。

山岡委員：学校にない教材を使える体験学習である。

館長：顧問の先生からも「こんな機械を使えることはない」と激励された。

常喜委員：特別観望会について、流星群観察は該当しないのか。

弘田：深夜から明け方が多いため実施が難しい。

山岡委員：ふたご座流星群は実施してもいいかもしれない。

服部委員：生田緑地観望会の参加人数が少ないようだが以前と比べてどうか

高 中：7月以降は30名定員だが、6月まではコロナの影響で定員を減らしていた。体調不良などで家族単位での欠席も多く予約満員でも参加人数が減ってしまうのが現状である。

服部委員：サポーター研修関係の応募者は増えているか。

杉 浦：当館は、お子様の利用が多く成人向け講座の募集は難しいが、公共施設にチラシを配架、SNS投稿など広報に工夫した。自然については9人受講し、科学サポーターについては1名定員割れ（11名）となったが、受講者は意欲的に参加されている。今後も募集を強化しながら実施する。

館長：当館は市職員の体制が少人数である。特に自然については職員が少なく、市民の方に声をかけて市民とともに植物や昆虫調査が始まった。他分野にしてもそうである。そのような歴史を経ているが、自然サポーター研修会としての実施は初めてである。現在のボランティアは高齢化している。今後持続するためにも我々ができることとして、自然豊富な生田緑地の魅力を伝えつつ、サポーター研修会卒業生にボランティア団体への参加を提案している。大人向け講座は集まりにくいので、広報に力を入れたい。

服部委員：かわさきサイエンスチャレンジについて、KSPで来場者に聞くと実際に科学館へ来館したことのある人が少ない。科学館に来てもらえない歯がゆさを感じているがどうしたらよいか。

杉 浦：科学館は多摩区にあり、溝ノ口のKSP（かながわサイエンスパーク）とは距離がある。来館したことのないお子さまも多いが、科学館の出展コーナーがあり、職員は元より市民講師の方がこのような様々な講座を行うことが、館の存在を知っていただく契機になると思っている。館外に出たイベントも科学分野の教育普及の大きな柱である。イベント会場では館の広報物の配架やキャラクターのぬりえ等を実施し、なるべく外部へアピールする場としている。今後もさらにアピールできるように努める。

服部委員：かわさきサイエンスチャレンジで自然分野や天文分野も何かやっても良いのではないか。特にプラネタリウムと生田緑地の自然について何かやられたらいいか。

杉 浦：出展テーマの工夫については検討する。

(5) ネットワーク事業

【展示・企画事業】

- ・「神奈川リレー科学実験教室」

科学に関心をもつ子どもの育成や、科学の体験活動を推進することを目的とした教室を7月16日に神奈川県立青少年センターとの共催で実施し、46人が参加。

- ・「FIELD MUSEUM 展」

令和6年1月14日（日）予定の専修大学「FIELD MUSEUM 展」に向けて、生田緑地の体験型教材として地層フィールドワークを9月に実施。当日は29名が参加。

- ・「川崎市臨海部企画展示」

キングスカイフロントの取組や市内企業による最先端技術を紹介する展示会について、現在、川崎市臨海部事業推進部と調整中。

【調査研究・収集保存事業】

- ・「川崎市域の生物調査」

「かわさき自然調査団」と共著で調査結果を公表する。「神奈川県植物誌調査会」の川崎ブロック事務局として資料の受入、問合せ等に適宜対応する。

【学習支援事業】

- ・「職場体験・職業インタビューの実施」

8月に県立高校のインターンシップ、市内中学校の職場体験では6月1校、7月3校を受け入れた。博物館業務全般に関する質疑応答への対応として職業インタビューを7月2校受け入れた。9月末までに7回実施し、25人の生徒が参加。

- ・「中学校連合文化祭」

10月25日、市内中学生が集まる市中学校理科作品展受賞式及び研究発表会の開催に協力した。

- ・「教員・職員等研修の受入れ」

市内外の小中学校及び理科研究会などの依頼による自然観察や天文の研修会を7月に、横浜国立大学との協働によるCST（コアサイエンスティチャー）養成講座を8月に実施。今年度は、川崎市総合教育センターからの要請による初任者教員の施設利用を受け入れた。県立学校教員の要請による社会教育施設体験研修を実施。博物館学芸員実習は、8月に実施。各種研修で延べ276人を参加・受入れた。

- ・「川崎市小・中学校理科優秀作品展」

小学校科学作品展における市長賞受賞7作品を12月に、中学校理科作品展における金賞作品及び、日本学生科学賞神奈川作品展特別賞受賞作品を令和6年1月に展示予定。

【地域振興・生田緑地内のネットワーク事業】

- ・「図書館、区役所等との共催事業」

多摩図書館との共催によるプラネタリウムでの読み聞かせ投影を11月に実施。

10月の区民祭では市民によるプラネタリウムの特別投影を実施。

- ・「地域の大学、団体等との共催事業」

田園調布学園大学と連携した緑化フェアのプレ企画としての事業実施に向けて調整を実施。11月に川崎天文同好会と共催による講演会を開催予定。

- ・「生田緑地ミュージアム」

9月に「お月見フェスタ」を開催し、科学館ではお月見プラネタリウム、民家園と当館学芸員による民家園でのお月見トーク、当館学芸員による屋外ステージでのお月見トークを実施した。

- ・「生田緑地内施設との共催事業」

「七夕体験」としてプラネタリウムでの七夕投影の実施、民家園での飾りつけ体験などを実施しました。「お月見」のイベントについては3に記載のとおり。

- ・「生田緑地内施設及び指定管理者との広報活動の推進、各施設の回遊性の向上」

生田緑地の全体会議や広報担当者会議などへ参加し、生田緑地全体での情報共有や横断的な広報活動を行っている。民家園や岡本太郎美術館、藤子・F・不二雄ミュージ

アム、登戸行政サービスコーナーの5ヶ所でのスタンプラリーの開催や、生田緑地内全体の紹介をするフリーマガジン「もりのにじ」の作成などにより、施設の回遊性の向上を図った。

【質疑応答】

山岡委員：民家園との連携で、七夕やお月見があるが、民家園での七夕体験の参加者はわかるか？

弘 田：詳しい人数は把握していない

南條委員：フリーマガジン「もりのにじ」の配布場所はわかるか。

渡 邊：各館とビジターセンターである。

南條委員：区役所などにはおいていないのか。

渡 邊：置いていない。

※出席していた広報を担当している指定管理者からそのような回答であったため置いてないと回答したが、実際は東口ビジターセンター他、緑地内各施設、向ヶ丘遊園駅、登戸駅、多摩区役所等で配布している。

高橋委員：中学校の連合文化祭・作品展などでお世話になっている。川崎市は広く、多摩区麻生区の生徒が中心となる。川崎区の子どもたちにもぜひ見せてあげたい。何らかの形で市の予算で交通費が出るなど施策があればいいと思う。

杉 浦：当館でも連携事業のなかでアピールできればと思う。

(6) 管理運営事業

【管理運営】

- ・「指定管理者と連携した運営」

新型コロナウイルスの5類移行に伴い、徐々に講座やプラネタリウムの定員などを増やしてきた中でも、円滑に運営を行っている。

- ・「危機管理」

職員が毎月分担して館内の定期点検を実施している。9月1日に火災発生を想定して、ショップやカフェの従業員も含めた通報・消火訓練を実施。2月又は3月には地震を想定した避難訓練を予定。

- ・「進行管理」

専門部会での御指導や御助言、事業評価などを踏まえ事業計画を策定し、より適切な事業内容や実施方法などについて検討しながら事業を行っている。

【科学館の魅力を高めるサービス】

- ・「広報計画」

隔月発行の科学館だよりや季節ごとに発行しているプラネタリウムリーフレット、ホームページやSNSなどによる情報発信を積極的に行っておりSNSのフォロワーについては、4月1日時点で4,946人、10月1日時点で5,154人と6か月で208人増加している。

毎月1回かわさきFMへの学芸職員の出演のほか、テレビや新聞・雑誌などの取材を積極的に受け広報に努めている。

特に今年度は様々な事業で報道発表を積極的に実施することにより、取材を受け、様々な媒体で報道されている。

- ・「魅力を高めるサービス」

スタッフが適切な案内や接遇を行い、アンケートでも親切、親しみやすいなどの評価を受けている。また、学芸職員の出館者や電話でのレファレンス対応や、ショップやカフェなどにおけるサービス向上などにより、魅力の向上を図っている。

・「多様な利用者への配慮」

館内はバリアフリー対応となっているほか、英語・中国語・韓国語の館内案内を用意している。また、プラネタリウムにはヒアリンググループを設置しているため、コロナ禍でも自身の補聴器等で利用できたが、新型コロナウイルスの5類移行に伴い、受信機の貸し出しを再開し、聴覚障害者などの聞こえをサポートしている。

【質疑応答】

山岡委員：外国人来館者への利便性向上とあるが、どれぐらい来館されているか。

渡 邊：把握していない。

山岡委員：リーフレットの数などの配付数はどうか。

渡 邊：具体的な数はわからないがあまり減っていない。民家園には多く来園している。

館 長：民家園職員によると、今年民家園には外国の方が多く来られているが、中央広場まではたどり着かないようである。

南條委員：SNSは何を使っているのか。

高 中：各分野共通でフェイスブックとX（旧ツイッター）を使用している。

南條委員：インスタグラムは使用しているか。

高 中：使用していない。

常喜委員：かわさきFMには、みなさんが出演されているのか。

渡 邊：学芸職員が出演している。

山岡委員：かわさきFMは川崎市全域で聴取できるのか。

渡 邊：電波では武蔵小杉を中心とした限られた地域だが、インターネットでは視聴できる。

館 長：今年度はFMヨコハマで科学館が紹介された。別番組の取材の際に職員とラジオリポーターが意気投合したこときっかけに、2週連続で特集され、職員が出演した。また、9月のはじめにテレビ東京の「アド街ック天国」で紹介された。放映翌日は当館ホームページがつながりにくくなるなど、メディアの影響は大きいと感じた。

服部委員：多摩区観光協会はタウンニュースやJ:COMなどを使って宣伝している。限られた地域ではあるが、利用してみたいか。

館 長：タウンニュースに呼びかけて取材いただいたことがある。J:COMでは、キッズ学芸員の取り組みを取材し、映像はYouTubeにもアップされた。

眞壁委員：最近の親御さんは、インスタグラムを使う方がほとんどである。私たちも今年からインスタグラムを始めたが、フォロワーの増加ペースが速い。調べる際にはインスタグラムで先に検索する。親子向け、お子様向けのイベントを告知する際にはインスタグラムが主流になるので、開設を検討してほしい。

高 中：広報担当者との協議と、市の運用をみて検討する。

眞壁委員：リーチしたい年代によってSNSを使い分けると良い。若い人たちはインスタグラムが主流。フェイスブックの利用者は年齢層高めだと思う。

館 長：参考にさせていただきたい。

栗芝委員：異なるSNSに自動的に同じ内容を投稿してもよい。マッチポイントがふえるほうが広報では有利になる。

【全体を通じた質疑応答】

佐藤委員：今年は猛暑であったがその影響、来館者の変化などはあったか。

館 長：今年は夏の暑さが尋常でなく、中央広場に誰もいなかった。来館者数に影響が出た。プラネタリウムの観覧者数は定員増により昨年よりも増えているが、入館者数にはそこまで変化はない。今年の暑さが影響していると思われる。

部会長から、各委員に報告内容報告は了承された。

4. 報告事項（渡邊）

（1）第3回専門部会（事業視察）の希望調査について資料2（渡邊）

（2）その他

・部会長から、事務局・各委員にその他の質問、意見等ないか確認、報酬入金日報告

服部部会長：その他、よろしいでしょうか。ないようでしたら、議事の進行を事務局にお返しします。委員の皆様、ご協力ありがとうございました。

5. 閉会（渡邊）

服部部会長、議事ありがとうございました。また、委員の皆さまも御助言ありがとうございました。

以上を持ちまして、第2回専門部会を閉会いたします。本日はありがとうございました。